

「水土を守る人々」では、農業や農業用水の役割とこれらが持つ多面的機能等が十全に発揮されていくために、農業水利施設等の維持管理を支える人々の日常にスポットを当てて、その取り組みを紹介することで、農業農村整備や多面的機能の発揮が「人」の支えの上に成り立っていることを伝えていきます。  
※不定期で掲載いたします。

「土地改良分野に女性の視点と行動力を発揮し、ネットワークづくりを」

～ とっとり<sup>みどり</sup>水土里の女性会 会長 檀床<sup>だんどこ</sup>和子<sup>かずこ</sup>氏 ～ 鳥取県鳥取市

今回、「水土を守る人々」で紹介するのは、鳥取県全域に渡り活躍されている「とっとり<sup>みどり</sup>水土里の女性会」会長の檀床<sup>だんどこ</sup>和子<sup>かずこ</sup>氏である。

土地改良について何も知らなかった檀床さんは、当時の土地改良区役員の紹介で旧北条町土地改良区の職員になって土地改良に携わるようになった。同土地改良区に38年間勤務され、その間、未納賦課金の徴収や大区画ほ場整備事業（受益面積227ha）の調整に主に携わり、土地改良区の運



檀床和子さん

営やほ場整備事業の推進に尽力された。その後、旧北条、旧北条町、旧大誠の3つの土地改良区が、運営基盤の強化及び適切な施設の維持管理体制を整備するため水系単位で合併され、北条水系土地改良区が誕生した。檀床さんは、担い手への農地集積を一層進めるため、合併前に引き続き、大区画ほ場整備事業の調整などに尽力された。そして、平成29年に「とっとり水土里の女性会」が設立されることになり、これまでの実績や土地改良への熱意が評価され、その初代会長に就任された。

## 1. 時代を先取りした土地改良

昭和57年に県営のほ場整備事業の調整を行っていた当時、檀床さんが目指したほ場整備計画は、①ほ場を小字<sup>こあざ</sup>一枚の大区画（※）にする②農道は対面通行できるよう広くする③用水路はパイプライン化する④ラジコンヘリによる防除のために電線を地下埋設するという現在でも通じる時代を先取りした計画だった。

ほ場を大区画化すると畦畔の草刈りなどの作業が楽になり、農道を広げて大型機械を搬入できればさらに田植えや収穫などの作業が楽になる。用水路をパイプライ

ン化することで水管理も楽になり、電線を地中に埋めることで、ラジコンヘリを安心して飛ばすことができ、各種防除が楽になる。「とにかくほ場は小字一枚、ほ場の大区画化が何故良いのか、計画6集落に説明して回りました。」と当時を振り返ってくれた。

農家の土地意識が強く、境界線を作らない大区画への理解を得るのは大変だった。

「反対者には、個人交渉で説得します。それでもダメな時は、奥さんや同居している息子さんのお嫁さんを味方に付けて説得しました。」と檀床さんは言う。こうした努力が報われ、事業が実施された。結果、担当



大区画化されたほ場

地区の用水路は全てパイプライン化され、十分幅の広い農道が整備された。また、元々1区画当たり10アール程度だったほ場は、一番大きなほ場では2.8ヘクタール、小さなほ場でも1ヘクタールの大区画ほ場へ生まれ変わった。これは、現在でも県内一大きいほ場とのこと。「ただ、叶わなかったことが一つあるんです。それが電線の地下埋設化。費用面で調整がつかなかったんです。」と少し残念そうな表情を浮かべた。10年、20年先を見据えた県営のほ場整備を実施した当時について、「ほ場整備を契機に6集落で1つの営農組織を設立させ、改良区が事務支援を行うことで、営農組織は収入アップが図られ、改良区は確実に賦課金収入が見込める。その一心でした。」と振り返った。

※<sup>こあざ</sup>小字一枚の大区画：従来の田や畑を市町村内の小字単位にまとめたもの（1.0ha～2.8ha）

## 2. 「とっとり水土里の女性会」の設立について

「とっとり水土里の女性会」は、水土里ネットとっりの女性職員の「今まで、土地改良の分野には、女性の出番がほとんどなかった。水土里の大切さは土地改良があつてこそである。女性農業者も増えつつある。しかし、水土里があつてこそ農業ができることは、誰も言わない。今こそ、女性の視点・行動力でその大切さを広め、農業女子や趣旨に賛同する応援女子とネットワークをつくり、女性の出番を広げていきたい。」という強い思いから設立が検討されていた。そこで、県内土地改良

区の女性職員等にも意見を聞いたところ、賛同者は多く、比較的スムーズに女性会を設立できたとのこと。初代会長には、土地改良区退職後も土地改良に熱いハートを持ち続けておられた檀床さんにオファーがあったとのことだった。

オファーを受けた檀床さんは、当初この大任に随分と悩まれたそうだが、自分

がこれまで培ってきたノウハウを少しずつでもみんなに伝えたい、まだやりたいことがいっぱいあるという熱い思いにご自身が突き動かされ、初代会長に就任された。

「とっとり水土里の女性会」は平成29年7月20日に設立され、現在のメンバーは土地改良区の職員を中心に38名（内訳：改良区23名、県職員10名、その他一般5名）となっている。設立されて間もないが、これまでに研修会2回、現地見学会1回を行っている。「普通の研修だと施設や講師の話を見聞きして終わって帰ってしまいがすがそれではダメ。何かプラスアルファが必要です。」と檀床さんは言う。「女性は甘いものが好きだし、おしゃべりも好き。お茶を出す時は茶菓子をひとつ付ける。茶菓子は折り紙の上に置いて、帰るときに鶴を折ってもらう。この鶴が千羽になったら、これを持って視察に行こうね。」と、女性の視点から誰でも継続して参加しやすい環境を工夫して創られている。「例えばね、お昼ご飯を食べるとき、ひとつのテーブルに違う改良区の人が何人か居たら、いろいろな話ができるし、発言する機会ができる。馴染んでくれば話し方も変わってきて、参加者のネットワークができる。敷居が低くなれば、分からない話も聞きやすくなって仕事がやりやすくなりますよ。」と語った。土地改良区からの参加者の間では、既に情報交換などの交流が始まっている。



女性会設立メンバー



昼食もネットワークを創る場

### 3. これからの女性会の活動について

今後の目標を伺うと、「まずは会員を増やすこと。水土里ネット系列だと改良区や県の職員、そのOBの方々から増やしていきたいですね。それから農家の方や農業に興味のある方を仲間に入れて『応援隊』を創りたい。」と言われた。農道や水路は農家だけが使っているわけではない。「綺麗な農道を歩いた方が健康的だし、農道や水

路のゴミ拾いだとかそういうことをみんなでやっていきたい。それが自分や地域の人々の健康につながっていく。そうしたら心も豊かになっていくじゃないですか。」と語った。様々な業種の方を『応援隊』に取り込むことで、幅広い意見を取り入れ、その『応援隊』の方々に土地改良の種をまきたいと力強く語られた。「まずは改良区を知ってもらうことが大事です。今年、会員を増やすことには自信があります。何人増やせるかなと楽しみにしています。」と語った。「改良区というのは重要な仕事をしています。そういうことを農家の皆さんが自覚してくれば、もっと向上心が上がる。そして横の繋がり、土地改良サイドだけでなく、経営支援、普及所、試験場といった農業に携わる機関とのネットワークを創って仲良くすれば、農業はもっと発展する。」とこれからの活動に夢を膨らませていた。



折り鶴で次回へ繋ぐ

#### 4. 檀床会長は頼れるお姉さん

女性会副会長の鳥取県土地改良事業団体連合会の山崎課長に、檀床さんの人柄をお伺いすると、「会長のことは以前から知っていましたが、熱いハートと信念を持っておられ、前向きで向上心が凄いです。」と言われた。実際に一緒に活動している中で、他県の改良区の方だけではなく、自ら足を運んで形成された改良区以外の方々との人的ネットワークを垣間見て、「凄い人ですよ。本当にいろいろお勉強させていただいています。私たちの頼れるお姉さんです。」と、その人柄と懐の深さに厚い信頼を寄せられていた。檀床さんに、「周りの方は、元気をもらっているような感じですね。」と伝えると、「そんなことはないよ、いっぱい皆さんに助けていただいて、自分の仕事がやりやすいように皆さんが助けてくださるんです。」と照れくさそうに笑われた。



熱いハートで女性会を牽引

#### 5. 先人への感謝を忘れずに

土地改良への思いを伺うと「農地は祖先が造ってくださったものです。だから良

い農作物ができるんですよね。ほ場を大区画にしたり、水路を引いたり、農道を広くして機械の搬入搬出や流通がスムーズになったりしたから、今の農地があるわけです。その基盤整備は先人の土地改良関係の方がされたんですよ。それを維持管理することを忘れてしまったら、良い農作物はやがてできなくなる。だから今、更に使いやすく更新したり、再度、時代にマッチするほ場整備が大事になってくるんです。」と土地改良に対する思いを語っていただいた。



現地見学会で除塵機を見学

## 6. 最後に

「これから全国的に私たちのような組織ができると思っています。でも、女性が活躍できる場をただ創れてと言ってもダメ。活動するには予算が必要ですが、県土連に潤沢な予算があるわけではないんですね。私たちのような組織が増えていくように、国や県には引き続き、女性会の活動への支援をお願いします。もちろんこういう形でPRしていただくことも大歓迎です。」と話してくれた。



研修会の様子

【中国四国農政局農村振興部設計課】